原　　著　　大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター紀要　No.30，2012
キーワード：自由遊び，仲間入り，社会性

# 遊びの仲間入りにおける受容の要因分析

島田知和　田中　洋

（平成25年2月7日受理）

【要　旨】　本研究の目的は，自由遊び場面における仲間入り受容の要因を明らかにすることであった。「遊びの中心となる子ども」に焦点をあて，観察を行い，何に基づいて承認や拒否などの判断をしているか明らかにした。その結果，「遊びの中心となる子ども」に対し，①日常的に一緒に遊んでいること，②興味を惹く次の遊びの提案をすること，③遊びをより面白くさせると判断されること，が承認を受ける要因になっていることが示された。

## Ⅰ．問題と目的

子どもは幼稚園・保育園に入園し，はじめてきょうだい以外の他の子どもたちと生活を共にする。そこで子どもたちは遊びやお集まり，学習的な活動などを通して集団で生活していくための社会的スキルを身につけていく。なかでも遊びは幼児期における社会性の発達に影響を与える重要な活動としてあげられている（原ら，1994）。例えば，3歳頃の砂遊びなどにみられるようにバケツに水を入れて他の子どもと協力して運ぶなど，一人でできないことを協力して行うことが幼児期の社会性発達において重要だと考えられる（加藤，1982）。その後，ルール遊びができるようになると共通の目的を持ち，遊びを展開していくことで協力関係の意識が内在化し，いっそうの社会性の発達が促される。また，倉持（1989）は遊びの中で生じる遊具や玩具などをめぐるいざこざを通して社会性の発達が促されることを示唆している。自分の要求と相手の要求のぶつかり合いの中で，子どもたちは自分の要求を主張したり，時には我慢をすることを通して，他の子どもとの折り合いをつけるといった社会的スキルを学んでいくのである。

子どもの遊びは園内における他の活動と区別される。また，大人の仕事の合間の余暇的活動としての遊びや小学生以上の授業の間の休み時間に行う遊びとも区別されている。井戸・門松（2007）が「子どもの世界では，遊びと学びは完全に一体になっており，遊びの中で学び，学びの中に遊び心がある」と述べているように，幼児期の子どもにおける遊びは学びそのものであり，大人や小学生の遊びと比較すると，より積極的な意義を持っていると考えられる。

幼児期の子どもたちの社会性の発達に関する研究として，遊びへの仲間入りに関する研究が多くなされている（青井，1991；倉持・無藤，1991；原野，1992；原ら，1994）。仲間入りに際して，子どもがどのような方略を用いるかに関して「入れて」という常套句が最も成功率が高く，子どもの使用頻度が高いことが明らかにされている（倉持・無藤，1991）。また，同じ方略でも相手側の組織レベルによって仲間入りの成否は異なることが示されている（青井，1991）。さらに，方略使用について相手側の意図の解釈が使用方略の選択に影響を与えてい

る。原野（1992）の研究によれば，子どもは架空場面では相手の意図をよみとり適切な参加方略を実行できるが，実際の場面では実行できない場合が多いことが明らかにされている。それ以外にも，原ら（1992）の研究では，仲間入りの成否や遊びの維持と遊びの中での適切な役割取得が関連しており，その際に，保育者による子どもの遊びへの適切な援助・働きかけが重要であることが示されている。このように，幼児の遊びへの仲間入りに関する研究では，主に仲間入りする側に焦点をあて，子どもが用いるタクティクス（仲間入りの達成を試みる中で，用いられる単一の行動ユニット）をカテゴリー化し，仲間入りのストラテジー（仲間入りの達成に高い可能性を持つタクティクスの連続体）とその成否の関係を明らかにしたものが多いことが分かる。

これに対し，遊びの受け入れ側の要因については，役割取得，相手の意図の解釈などを取り挙げるにとどまり，受け入れ側の認知や要求について詳細に検討したものは少ない。仲間を受け入れる側に焦点をあてた小林・野中（2011）の研究では，仲間を受け入れる際にとる行動を阻止・拒否・承認・暗黙の承認・受容・応答の6つに類型化し，仲間を受け入れていく過程，なかでも拒否・阻止場面に焦点をあて，その際の子どもの葛藤や動機について事例分析を通して考察をしている。しかし，仲間入りをする子どもと仲間入りを受容する遊び集団のやりとりは分析されているが，すでに形成されている遊び集団内の葛藤についての検討は十分になされていない。遊びを受け入れる側はすでに数人で遊び集団を形成していることが多く，その遊び集団内には中心となって遊びを提案・展開していく子どもの存在が指摘されている（柏，2004)。こうした中心となる子どもの存在は,その子どもの言動が集団内の遊びの種類やルールなどに大きな影響を与えるのではないかと考えられる。

そこで本研究では，遊びの中心となる子どもが遊び集団外の子どもの仲間入りや遊びへの参加を受容する際に，何に基づき承認や拒否などの判断をしているかについて明らかにすることを目的とした。また，遊びの中心となる子どもの言動が集団全体の仲間入りの受容にどのような影響を与えるのかについても検討を加えた。本研究では，従来の仲間入りに加えて「遊びへの参加」についても分析の対象とする。「遊びへの参加」の定義を，対象となる子どもが既に遊び集団に所属しており，遊びがそれまで行っていたものから，別のものへ移行する際にも継続して遊び集団に所属し，遊びへ参加することとした。

## Ⅱ．方法

**対象児**：観察対象となったのは，大分市内の保育園3・4歳児クラス12名（3歳児4名，4歳児8名）の中で，遊びの中心となるA児とした。また，月齢は観察を開始した2011年5月11日付けのものである。

この時期は子ども同士の相互作用がみられるようになり，他の子どもの遊びに興味を持ち始める時期である（Parten, M., 1932)。そこで本研究では，この時期の子どもの遊びが，仲間入りスキルを習得することによってイメージを共有した遊びへと発展していく過程を観察できると考え，3・4歳児を分析の対象とした。

**観察場面および期間(回数)**：観察は自由遊びの場面を取りあげた。観察期間（回数）は，2011年5月11日から2011年11月30日にかけて，平均週1回の計24回であった。時間は，朝9時から12時30分の間であった。

**観察方法**：保育者が介入しない子ども同士の遊び場面をビデオカメラで録画した。保育者が介入した場面やその他の活動場面は録画せず，随時子どもの様子で気づいたことを記録した。
**分析方法**：小林・野中（2011）の仲間の受け入れ方の行動類型，青井（1991）の仲間入りのタクティクスのカテゴリーをそれぞれ参考にし，独自のカテゴリー表を作成した（表1・表2）。このカテゴリー表に基づいて，集団内の中心となる子どもが仲間を受け入れる際にどのような行動を示したか，また，どのような方略を使用された場合に仲間を受け入れたのかを検討した。集団内の中心となる子どもが仲間入りを受容する上でどのような要因が存在するかについて，仲間入りを「拒否」した事例と仲間入りを「受容」した事例を抽出し，比較・検討を行った。

表1　仲間を受け入れる際の行動類型カテゴリー

| カテゴリー（行動類型） | | 内容 |
|---|---|---|
| A | 拒　否 | 仲間入り・遊びへの参加をする子どもからの働きかけに対し，否定的な発言・行動を示す。 |
| B | 承　認 | 仲間入り・遊びへの参加をする子どもを仲間に入れることが明らかの行動・発言。 |
| C | 暗黙の承認 | 仲間入り・遊びへの参加をする子どもからの働きかけに対し，無言のまま一緒に遊び集団に加える。 |
| D | 受　容 | 他の仲間の気持ちを理解・支持する行動・発言。 |
| E | 応　答 | 仲間入り・遊びへの参加をする子どもの行動・発言に対応した発言を返す。 |
| F | 勧　誘 | 他の子どもに対して進行中の遊びの成員になることを促すような行動・発言をする。 |

表2　仲間入り・遊びへの参加の方略カテゴリー

| カテゴリー（方　略） | | 内容 |
|---|---|---|
| a | 観　察 | 遊び集団が占めている空間には入らないが，遊び集団内の相互作用が十分認識できる距離に接近し，成員の活動を観る。成員との相互作用はない。 |
| b | 活動内容の質問 | 進行中の遊びの内容を尋ねる。 |
| c | 補完的役割 | 遊びの進行のために必要な素材集め・道具の使用など補助的な役割を行う。 |
| d | 同調行動 | 遊びの中心となる子どもの発言・行動に興味を示したり，発言・行動を繰り返す。 |
| e | 遊びの中心となる子どもへの関与 | 遊びの中心となる子どもへ物理的あるいは言語的に関与する。 |
| f | 勧　誘 | 他の子どもに対して進行中の遊びの成員になることを促すような行動・発言をする。 |
| g | ルールに従う | ルールのある遊びにおいてそのルールに従った行動をとる。 |

## Ⅲ．結果および考察

本研究で中心となる子どもA児・B児・C児・D児の観察当初の姿（2011年５月11日時点）は表３に示した通りである。

表３　A児・B児・C児・D児の観察中の姿

| 対象児 | 月齢 | 性別 | 遊び | 人とのかかわりなど |
|---|---|---|---|---|
| A児 | 4歳6か月 | 男 | ・５月当初から，遊び集団内の中心になることが多く，自分から他児に対して「○○をして遊ぼう」など遊びの提案をする姿が多くみられた。他児もその提案を受け入れ，同じ遊びをしていた。<br>・５月当初は，B児・C児と一緒にごっこ遊びなど（ゴーカイジャーごっこ）をして遊んでいる姿が多くみられた。８月頃から，D児と一緒に遊ぶ姿が多く観察されるようになった。 | ・５月当初より，他児に対して自分の要求をはっきりと言う姿がみられ，時には強い口調で自分の要求を押し通す姿もみられた。<br>・お集まりの場面では保育者の問いかけに対して発言したり，クラス全体に対して発言する姿もみられ，遊び以外の場面でも積極的にさまざまな活動に取り組んでいた。 |
| B児 | 4歳7か月 | 男 | ・観察期間を通して，A児と一緒にごっこ遊びなどを行っている姿が多くみられた。<br>・遊びの中で自分の要求を出すことが少なく，５月当初から，A児が提案した遊びを受け入れ一緒に遊んでいた。<br>・９月以降，A児以外の他の子どもと遊ぶ姿もみられるようになった。 | ・５月当初から，A児と一緒に遊んでいる際に，遊び集団外の子どもの仲間入りや遊びへの参加に関心を示すことが少なく，自分の遊びに集中する姿が多くみられた。 |
| C児 | 4歳6か月 | 男 | ・５月当初から，朝，登園する時間が早くA児の登園を待っている様子も観察され，仲間入りの方略「ｃ．補完的役割」「ｇ．ルールに従う」などを使いA児と一緒に遊んでいた。<br>・A児以外の他の子どもには自分の要求を出す姿がみられたが，A児に対して自分の要求を出すことが少なく，A児の要求を受け入れる姿が多かった。 | ・８月頃から，A児から仲間に入れてもらえない場面がみられるようになった。<br>・仲間に入れてもらえなかった場合もA児が遊んでいる付近で遊んでいる様子をみたり，同じ遊びを近くで行っている姿もみられた。 |
| D児 | 4歳2か月 | 男 | ・８月以降，A児の提案する遊びを受け入れ一緒に遊んだり，A児に遊びの提案をする姿もみられた。 | ・５月当初は，A児から仲間に入れてもらえない姿がみられたが，８月頃からA児と一緒に遊ぶ姿が多くみられるようになった。 |

まず，A児が遊び集団外の子どもの仲間入りを「拒否」した事例を表4に示した。

表4　事例1　「A児によるD児の仲間入り拒否とC児の同調行動」

事例1　7月11日

| 対象児 | 子どもの姿（発話・行為など） | 使用方略・行動類型 |
|---|---|---|
| | 朝，登園したA児・B児・C児が園庭で3人で遊んでいる。今まで行っていた遊びが終わり，靴箱付近の少し段差がある場所にて，新しくA児がけんけんをして遊ぼうと提案をし，けんけんが始まろうとしている。そこへD児が部屋から現れ，近くで3人の様子をみている。 | |
| A児 | **けんけんしたひとはいいもんあげるてきめとんもん。**<br>（けんけんをしながらB児・C児に得意気に話す） | f |
| B児 | **え，Bにも。**<br>（笑顔で語尾を上げながらA児をみる）<br>（C児はA児とB児の会話を近くで聞いている） | d |
| A児 | **そうで。** | B |
| A児 | **はやくけんけんしよ。**<br>（A児がけんけんを始める）<br>（B児・C児はA児と同じようにけんけんを始める） | d |
| A児 | **うわっ，おっと，あぶね。**<br>（転びそうになったことを笑いながら楽しそうに話す）<br>（C児はA児の様子を笑いながらみている）<br>（部屋の方からD児が靴箱付近にやってくる）<br>（D児は少し飛び跳ねながら楽しそうにA児たちの方へ近づいてくる） | |
| D児 | **あぶないの。**<br>（A児たちの遊びに興味をしめしている様子で聞く） | a・b |
| A児 | **おっとっとっと。**<br>（質問に答えずにふざけた様子でD児を押す）<br>（C児はA児がD児を押している様子を近くでみている）<br>（押されてD児は何も言わずにその場にしゃがむ）<br>（A児はD児を押した後，すぐに観察者の方を向き，じっと観察者の方をみる） | A |
| C児 | **おっとっとっと。あぁ，あぶなかった。**<br>（C児がA児と同じようにふざけた様子でしゃがんでいるD児を押す） | A |
| A児 | **なんでこっちじっとみてんだ。**<br>（けんけんをしながら観察者に向かって不満そうに発言する） | |
| | A児はけんけんをしながら園庭の方へ向かい、その後に続いてB児・C児もけんけんをしながら園庭の方へ向かっていった。D児は靴を履くことなく，靴箱付近で3人の様子をみていた。 | |

事例1はA児・B児・C児が一緒に遊んでいるところに，新しくD児が仲間に入ろうとする場面である。ここでD児が使用方略「a．観察」「b．活動内容の質問」を使用したことに対して，A児は言葉ではっきりと仲間入りを拒否するわけではないが「おっとっとっと」と少しふざけた様子で質問に対して答えることもなく仲間入りを拒んでいる。これははっきりとした表現をとらない形での仲間入りの拒否だといえる。またB児が，使用方略「d．同調行動」を使用し，A児が提案する遊びに興味を示したことに対して，A児は使用方略「B．受容」を使用しB児の遊びへの参加を肯定的な言動によって受容している。以上のことから仲間入りや遊びへの参加を受容する子どもが，遊びへの質問に答えたり，遊びへ興味を示した子どもに肯定的な態度・行動をとった場合に仲間入り・遊びへの参加を受容したといえる。

5月当初より，A児はB児・C児と3人グループで一緒に遊んでいることが多く，D児と一緒に遊んでいる姿は観察されていなかった。A児にとって遊び仲間としてD児が意識されていなかったため，仲間入りを拒否したのではないかと考えられる。仲間入りを拒否されたD児は，そのまま3人が遊んでいる様子をしばらくみていた。これは一度仲間入りを拒否されたが，

それでもA児らと一緒に遊びたいという思いや「けんけん」という遊び自体に興味があったため，このような姿がみられたと考えられる。5月当初より，A児と同調して行動することが多いC児は，A児の言動から影響を受け，D児を押したのではないかと考えられる。

次に，A児から遊びへの参加を「受容」された子どもと「拒否」された子どもがどちらもみられる事例を表5に示した。

表5　事例2　「D児による遊びの提案とA児によるC児の遊びの参加への拒否」

事例2　8月29日

| 対象児 | 子どもの姿（発話・行為など） | 使用方略・行動類型 |
|---|---|---|
| | 朝，登園しA児・B児・C児・D児の4人は靴箱前の段差に座っている。その後，4人は園庭で天狗下駄（地面に接地する部分が従来の物より高い下駄）をはいて「ぐーぱー」（足を閉じたり開いたりしながら前に進む遊び）をして遊んでいる。 | |
| D児 | **じゃあA，そとで「ぐーぱー」やろう。**<br>（楽しそうに笑いながらA児の肩に手を置き言う） | f |
| A児 | **うん，いいよ。ねぇなかでしよう。**<br>（「いいよ」と言った後に少し不満そうな顔をする。その後，「なかでしよう」と表情は穏やかだが自分の要求を通そうとして語調をあげて言う）<br>（D児はA児から「いいよ。中でしよう」と言われ，うれしそうに走って靴箱の方へ向かう） | B |
| C児 | **いいよ。**<br>（言葉の調子を上げ，笑顔で言う） | |
| A児 | **Cだけせんどって。**<br>（真剣な表情をして少し強い口調でC児に向かって言う） | A |
| A児 | **この3人が・・・**<br>（「この3人が」と言いながらB児とD児を指さす。）<br>（B児は少し立ち止まる）<br>（C児は言われたことに対して何も言い返さずに戸惑ったような表情でA児たちをみる） | |
| A児 | **Cはのぼらんで。**<br>（靴箱の前の段差をのぼりながら，強い口調で動きを制するようにC児に向かって言う） | A |
| | B児・D児はC児に対して特に声をかけたり，みたりすることもなく，A児の後をついて部屋に入った。C児は寂しそうな表情をしながらA児たちの後をついて靴を脱ぐが，A児たちが部屋で遊んでいる様子をしばらく廊下からみていた。 | |

日常的にA児・B児・C児は一緒に遊ぶことが多かったが，事例2ではC児は遊びへの参加を受容されず，3人が部屋で遊んでいる様子を廊下からみていた。事例1では仲間入りを拒否されたD児だったが，この事例ではA児と同じ遊びに参加しており，さらにA児に対して「次の遊びの提案」をしている。C児はいつも一緒に遊んでいたA児から突然拒否されたため少し戸惑ったような表情をしていた。

この事例ではA児がD児の遊びへの参加を承認した要因として，D児がA児に対して「次の遊びの提案」をしたことが考えられる。この事例直前のC児・D児の遊んでいる様子やA児に対する関わり方では，2人の間で明確な違いは観察されなかった。その後の観察においても，C児がA児に対して次の遊びを提案する姿は観察期間中を通してほとんど観察されなかったことから，仲間入りや遊びへの参加の承認を判断する要因の1つとして，遊びの中心となる子どもが興味を持つような「次の遊びの提案」をすることが考えられる。

また，C児が拒否された要因として，D児のように「次の遊びの提案」をしなかったことが要因の1つに挙げられるが，この事例からは拒否された要因は明らかにすることができなかっ

た。この事例以前にA児との間で何か問題があったか，もしくはC児がこの「ぐーぱー」という遊びが苦手だったなどの，A児がC児を受け入れにくい状況にあったことが推測されるが，今後，このような問題点を解決するためには保育者から，その観察日前後の対象児の様子の聴き取りや，この事例前後の対象児のやりとりを細かく観察することが求められる。

最後に，A児が遊び集団外の子どもの遊びへの参加を「受容」した事例を表6に示した。

表6　事例3　「A児によるC児の遊びへの受容」

事例3　8月29日

| 対象児 | 子どもの姿（発話・行為など） | 使用方略・行動類型 |
|---|---|---|
| | 「ぐーぱーをやる」と言って部屋に入ったA児・B児・D児だったが，「ぐーぱー」ではなく，かけっこをして遊んでいる。先程仲間に入れてもらえなかったC児はA児たちが遊んでいる様子を近くで見ている。A児が部屋にあるピアノの椅子の上に立ち「そこに並べ」など命令口調で指示を出し，B児・D児がその合図に合わせてかけっこをしている。またA児はC児に対して休憩（水筒のお茶を飲む）の指示も出している。 | |
| A児 | **おい，あんたもすんのか。** | |
| | （C児のことを指さしながら命令口調で言う） | F |
| | （C児はA児たちが遊んでいる様子を近くで楽しそうに座ってみている） | a |
| D児 | **あんたもしよう。** | F |
| | （C児に少し近づきながら楽しそうに言う） | |
| | （C児はうれしそうにB児・D児の方へ向かう） | |
| A児 | **ねえCはきゅうけいしていないからきゅうけいして。** | |
| | （水筒のある方を指差しながら命令口調で言う） | |
| | （この時，B児とD児はすでに並んで待っている） | |
| C児 | **はぁい。** | |
| | （水筒のお茶を飲もうとする） | |
| | （C児は楽しそうに水筒がかけてあるコーナーへ向かう） | |
| D児 | **よぉい・・・** | |
| | （楽しそうに笑いながら言う） | |
| A児 | **のどかわいたの。コップにいれんでから、コップにいれないからな。** | |
| | （腕を組んで命令口調で言う） | |
| C児 | **はぁい。** | |
| | （水筒がかけてあるコーナーに座り，コップに入れずに水筒のお茶を飲もうとする） | |
| A児 | **Cも。** | |
| | （腕を組んで命令口調で言う） | |
| | （C児はまだ水筒を片づけている） | |
| A児 | **はやくしなさい。もういいCは。そこにならべ。** | |
| | （命令口調で言う） | |
| | （B児・C児・D児が楽しそうな様子で一列に並ぶ） | |
| A児 | **よし4にんチームだ。よぉいどん。** | |
| | （大きな手振りをしながら大きな声で言う） | |

事例2ではC児の遊びへの参加を拒否したA児が，仲間を受け入れる際の行動類型「G．勧誘」を用いて一度拒否したC児を再び仲間に入れている。4歳児は「連合遊び」や「協同遊び」などの楽しさを意識し始める時期であり，遊びの中で子ども同士の相互作用が多くみられるようになる。同時に，他児と自分を比較するようになり，遊びの中で競い合う姿もみられるようになる。そうした保育園での経験の中から，A児は「競い合う人が多い方が楽しい」というかけっこの面白さを理解し，より楽しく遊びを展開していくために一度拒否したC児の遊びへの参加を受容したと考えられる。

またA児はC児の遊びへの参加受容後，C児に対して命令口調で「そこに並べ」「休憩をして」などの要求を出している。これに対してB児らは何か自分の要求を出したり，指示に従わない

などの姿は観察されず，楽しそうに遊んでいた。このことから遊びや遊び集団への要求や遊びの展開などに対するA児の意向が遊び集団へ大きく影響を与えているといえる。

5月当初より，A児は命令口調になったりと多少強引な姿もみられるが，遊び集団内では中心となって遊びを展開している。このことからA児は遊びの面白さを理解し，他児にとって魅力的な遊びであるため，多少強引な要求でも受け入れられるのではないかと考えられる。A児のこのような姿から遊びの面白さを理解している子どもが遊びの中心になるということが示唆される。

以上の3事例を通じて，遊びの中心となる子どもが遊び集団外の子どもの仲間入りや遊びへの参加を受容する際に，何に基づき承認や拒否などの判断をしているかについて，検討・考察をした。事例から遊びの中心となる子どもが他児の仲間入りや遊びへの参加の受容を判断する要因として次の3点が明らかにされた。

まず初めに，遊びの中心となる子どもと日常的に一緒に遊んでいるかどうかということである。幼児期における遊びは，数日間同じ遊びを継続して行うことが多く，また，その遊び集団内においてのみ共有される遊びのルールや面白さが存在するため，日常的に一緒に遊んでいないと仲間入りが難しいといえる。

次に，遊びの中心となる子どもが興味を持ちそうな「次の遊びの提案」をすることである。提案するためには，日常的に遊びの中心となる子どもと一緒に遊び，好きな遊びや興味を持ちそうな遊びを把握しておくことが重要である。また，遊びの面白さを理解した遊び集団外の子どもの提案も仲間入りや遊びの参加の受容が承認されやすいといえる。

最後に，遊びの中心となる子どもが行っている遊びがより楽しくなると判断した場合，他児の仲間入りや遊びへの参加を承認することである。遊びの中心となる子どもから「人数が多い方が楽しい」，「この子が加わると遊びがより楽しくなる」と判断されるためには，その集団内で行われている遊びができ，面白さやルールを共有できることが条件となる。

本研究では観察日が週に1回だったため，観察日以外の対象児の姿を把握することができず，考察が不十分になった事例があった。今後より考察を深めるためには，観察日以外の対象児の姿を保育者より聴き取り，「点」ではなく「線」で子どもの行動を分析・考察する必要があるだろう。

## 参考文献


1）青井倫子（1991）　遊び場面における幼児の仲間入りのストラテジー，　広島大学教育学部紀要　第１部　第40号　pp.187-192.

2）青井倫子（2000）　幼児の仲間入り場面における規範の機能，　幼年教育研究年報　第22巻　pp.45-52.

3）遠藤俊郎・星山謙治・安田貢・斉藤由美（2007）　遊びが児童の心身に与える影響について―児童の攻撃性・社会性に着目して―，　教育実践学研究　12　pp.25-34.

4）藤崎春代・無藤隆（1985）　幼児の共同遊びの構造―積み木遊びの場合―，　教育心理学研究　第33巻　第１号　pp.33-41.

5）原孝成・片岡美菜子・謝文慧・祐宗省三（1994）　幼児の仲間入りに関する研究―遊び集団の組織性と維持について―，　幼年教育研究年報　第16巻　pp.27-32.

6）原野明子（1992）　幼児の仲間入り場面における仲間の意図の解釈と方略，　広島大学教育学部紀要　第１部　第41号　pp.221-225.

7）飯島典子（2008）　「気になる」子どもの遊びの共有と社会性の発達―遊びの分類―，発達研究　第22巻　pp.151-162.

8）岩田恵子（2011）　幼稚園における仲間づくり―「安心」関係から「信頼」関係を築く道筋の探求―，　保育学研究　第49巻　第２号　pp.41-51.

9）柏まり（2004）　幼児の仲間集団における遊びの創造過程―リーダー的な幼児を中心とした話し合いの場面を事例として―，　中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要　第36号　pp.43-48.

10）加藤定夫（1982）　子どもの社会化と幼児教育―教育社会学の立場から―，　恒星社厚生閣

11）小林由乃・野中弘敏（2011）　４歳児の仲間入り過程における拒否・阻止の事例研究―仲間を受け入れる側の視点から―，　山梨学院短期大学研究紀要　第31号　pp.39-46.

12）倉持清美（1989）　幼稚園のなかのいざこざ，　幼兒の教育　第11号　pp.40-49.

13）倉持清美・無藤隆（1991）　「入れて」「貸して」へどう応じるか― ―時的遊び集団における遊び集団外からのかかわりへの対処の方法―，　保育学研究　第29号　pp.132-144.

14）永瀬祐美子・倉持清美（2011）　集団保育における遊びと生活習慣行動の関連―３歳児クラスの片づけ場面から―，　保育学研究　第49巻　第２号　pp.73-83.

15）佐藤康富（2008）　幼児の仲間との相互交渉における方略―５歳児の話し合いの場面における検討―，　小田原女子短期大学研究紀要　第38号　pp.87-94.

16）瀬野由衣（2010）　２～３歳児は仲間同士の遊びでいかに共有テーマを生みだすか―相互模倣とその変化に着目した縦断的観察―，　第48巻　第２号　pp.51-62.

17）田中浩司（2007）　遊びの成立における大人の足場づくり―ルール遊びの成立・発展過程の分析―，　心理科学　第27巻　第１号　pp.32-43.

18）横井紘子（2006）　保育における「遊び」の捉えについての一考察―現象学的視座から「遊び」理解の内実を探る―，　保育学研究　第44巻　第２号　pp.189-199.

# An Analysis on the Acceptance of the 3-4 year old Children's Entry Behavior in Free Play Situation

Tomokazu SHIMADA　Hiroshi TANAKA

The purpose of this study was to analyze the factor of the acceptance of the 3-4 year old children' s entry behavior in free play situation.

The child who takes the lead in play and the other 3 children were observed, and the factor of the acceptance of the entry behavior was clarified.

The results were as follows;

1. It was playing together dairy.
2. It was to propose the next play charms interest.
3. It was judged that it makes it play more pleasantry.

Key words : free play, entry behavior, sociability